

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201627
法人名	株式会社ケア・グループ
事業所名	グループホーム花丘
所在地	高崎市南大類町1307-6
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成26年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念をスタッフ一人一人が常に頭に置き、利用者様一人一人のその時に合わせた対応を心がけ、安全・安心・穏やかに暮らせる様にスタッフは最善の注意を払い「いつも笑顔を忘れずに」を合言葉に支援させて頂いています。
また、食事は専門スタッフを配置し、畑で取れた野菜や果物を使用したり、利用者様に季節も感じて頂ける様に工夫し、心を込めて作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「健康の基は口からにある」をモットーに食事には特に力を入れ、利用者のアンケートをもとに献立を作成し、専任の調理員が栄養や料理の形態に配慮し、心のこもった調理を提供している。事業所に隣接した畑にはイチジクや柿等がなり、車椅子利用者も収穫に参加し、新鮮な野菜を食卓に、果実はおやつに食べている。また、野菜と牛乳で作った青汁を毎朝飲んだり、歩行訓練で腸の働きを活発にしたりして、便秘薬は一切服用せず、一人ひとりの排泄パターンに合わせトイレ誘導を行い、全介助の人も含め全員がトイレで排泄し、快適な毎日を送っている。その他、事業所での生活状況を知ってもらうため、暮らしぶりを記した「たより」に外出行事の写真を添え、「受診結果」を伝え、生活の様子を家族と共有できるよう運営している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引継ぎ時に皆で唱和し確認し、実践するように心掛けています。 不定期ですが、スタッフ一人一人理念について考えてもらい文章化し提出してもらっています。	「人格尊重の介護、高齢者が自由に自分らしく生きる、地域との触れ合い」等の理念を掲げ、朝の申し送りで唱和している。職員は人格尊重、自分らしく生きる、地域との触れ合いについて考え、文章化することにより、日常のケアが理念に沿って提供できるか理解を深め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内子供会による廃品回収に協力しています。また中学校の課外授業の協力などで交流しています。	自治会に加入し回覧板が回り、子供育成会の廃品回収に協力したり、道路清掃に参加したりしている。前年の大雪の時は近隣の人達が雪かきに駆けつけてくれたり、事業所の花火大会では入居者と近所の子ども達が共に楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議などに民生委員の方に出席して頂き、情報交換をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議内で提案された事や話し合った事などを共有し、各利用者御家族にもお便りとして送らせて頂いています。	全家族に議事録を送り会議の意義を知ってもらい、家族が出席しやすいよう、奇数月の最終土曜日と日曜日に交互に開催しており、3家族が持ち回りで出席している。事業報告の後の意見交換では、外出に関する質問があり、感染症対策について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症などの流行情報や注意などのパンフレットを頂いたり、毎月相談員に訪問して頂いています。また研修に参加するなどして取り組んでいます。	更新時に市に出かけ各種の情報を得ると共に、入居者の利用料負担について地域包括支援センター職員と協議している。また、特定の相談員が特定の時間に事業所を訪問し入居者と顔馴染みとなり、入居者の思いや苦情を聞き職員に伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を何故してはいけないのかと言う事を常に考え支援するよう、施設内研修などで指導しています。	県の研修を受講し伝達講習を行うと共に、「身体拘束ゼロへの手引」を基に施設内研修を行い、全職員が「身体拘束をしない」という認識を持ち、日常のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演や研修に参加し、虐待について理解を深めてもらったり、日々スタッフ同士も注意しあう様にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、そこで得た知識を皆で共有しています。 成年後見制度を現在利用されている方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し、疑問点などについてはその都度対処しています。内容変更などは速やかに書面や来所時に説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所持や推進会議などで提案された事や要望などは、全家族へ文書で発送しています。	家族会の連絡網を作成する提案があり、個人情報保護の観点から実現に至らなかったが、提案された意見等は迅速に検討し実現できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて行われますが、代表者の来所時等にも疑問・問題点などについて意見交換をしています。	毎月6日に全職員が出席する職員会議には、設置者も参加している。転倒の危険がある利用者のための移乗器具の購入に対する職員の提案等には、利用者第一に考え実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修を受けさせケアの力量を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織のネットワークの中で相互訪問や勉強会に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に御本人や御家族からの不安や要望などについて十分に話し合い、良いサービスやケアが出来る様、努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような生活を希望されているか問題点や要望などを話し合うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の不安や要望に 今何が必要なのかを相談しながら見極め、サービスやケアの内容に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は私たちの家族という思いで介助・支援をさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子などをお便りや写真などにして、御家族の元へお知らせしています。また来所持には日々の様子なども丁寧に伝えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週のように将棋をうちに来て下さる方や、御家族と出かける事もあります。	家族が、墓参りや正月の外泊、外食等に行きつけの場所へ連れ出している。毎日面会に訪れる家族が他の利用者の話し相手になったり、趣味の将棋が続けられるよう毎週対局に訪れたり、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる事は少なく、皆様ホールで一緒に過ごされています。(利用者の希望にて)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に転居先へ訪問し様子を伺いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にアンケート調査を行い、意向や希望を聞き支援に活かしています。意思表示が難しい人は御家族に聞いたり、カンファレンスで話し合い把握に努めています。	日々の介護で利用者の意向や希望を聞き、意思表示の困難な人は表情等から汲み取り、ストレスが溜まらないよう希望にはすぐに対応している。また、年1回アンケートを行い、「家に帰りたい」と言う人には実家までドライブするなど、利用者の気持ちに沿い、「ノー」と言わず対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を基に、御本人の生活史や生活習慣を聞き、経過に応じたサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活内容が分かるチェック表があり、それを見ると水分・食事摂取量・排尿・便・内服などの現状把握が出来るようになっていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時にカンファレンスを行い、ケアプランを作成しています。状況に応じたモニタリングをし、変化があった時は見直しを行っています。	3ヶ月毎に行うケアに対する職員の意見と毎月行うモニタリングをもとにアセスメントを作成し、全職員に配り、ケースカンファレンスで検討し、3ヶ月毎の定期見直しを行っている。ケース記録簿に介護計画を綴り込み、計画に基づき日々の記録をしている。また、必要に応じ随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート等を活用し、職員全員で情報を共有し、見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望や外出希望者など職員同行で対応できるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	幾つかの病院やクリニックと提携しており、その時の病状に対応した医療が受けられる様、支援しています。	契約時にかかりつけ医を説明し、全利用者が毎月1回往診している協力医に受診している。毎日自家製の青汁を摂取、歩行運動により糖尿病の数値が下がっている状況を医師に報告しながら、連絡を密にし適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月一回の往診時に医師の指示を受けています。 変化があった場合、速やかに対応するよう心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては担当看護師やケースワーカーなどと連絡を取ったり、出向いて情報交換や相談をし利用者様が安心して治療を受けられるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に関し、御家族との話し合いを行っています。	契約時に看取りは行わないことを家族に説明し、緊急時は救急車対応をしている。重度化した場合はぎりぎりまで対応しており、看取りに関し今後における支援の方法については、協力医と検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを提示し、講習や研修などを定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練や消防署指導の下で、消防訓練も定期的に行っています。スプリンクラーや自動通報装置・警報装置などの設備も完備しています。 地域の方々にも協力をお願いしています。	年2回夜間を想定して行い、1回は消防署の指導を受けている。地域の人達の協力を依頼しているが、更に自治会の回覧板で消火器の使用方法等の訓練の呼びかけを行うことを検討している。災害時に備え、食糧と飲料水を用意している。	地域の人達の訓練参加について引き続き協力依頼を行うと共に、災害時における地域の人達の役割分担について話し合いが持たれるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人に合った対応・言葉掛けを心掛けています。	できることには手を出さず、誇りや尊厳を損なわない声かけを心がけている。部屋の戸は開けておいてほしいと言う人には暖簾をかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に支援・介助させて頂く際は、御本人に確認しています。 言葉が出ない方は表情などを注意深く見たり、思いを探る様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室・食堂・ホールといつでも自分のいたい場所でくつろげるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもちろん、美容師による出張カット・整髪などを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の摂取しやすい状態で季節の旬の食材を使って職員と一緒に楽しく頂いています。 行事食などもあります。	栄養摂取を考慮して、専門の職員が調理した食事は調理形態・盛りつけに配慮が行き届き、それぞれのペースで、職員と一緒に和気あいあいと食事をしている。事業所の畑で採れたすいかや果実などを頂くのも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・刻み・ミキサー食・粥など一人一人の状態に合わせて摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時や毎食後に口腔ケアをして頂いています。(介助・一部介助) 夜間、義歯を預かり消毒しています。希望されない方の物はお預かりしていません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員全員が把握し、その状態に合わせ声掛けや介助をしています。	野菜と牛乳で作った青汁を毎朝飲んだり、歩行訓練で腸の働きを活発にしたりして、便秘薬は一切服用せず、一人ひとりの排泄パターンに合わせトイレ誘導を行い、全介助の人も含め全員がトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、調整剤使用者0人。 青菜ミルクの摂取や運動等、日々リラックスし笑って過ごして頂けるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中と決まっていますが、外出や受診などもあり、希望される方があれば随時(夜間除く)入浴できるようにしています。	原則週2日午前中としているが、希望により随時入浴できる体制にある。夏場は、希望者には就寝前のシャワー浴を行っている。殺菌と保湿効果がある木酢を毎回使用し、季節を感じられるよう冬至には果樹園で収穫した鬼ユズを入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息が取れるるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の内容について主治医に相談や確認をし症状の変化などに注意を払い、内服できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを手伝ってもらったり、散歩や果物の収穫に出たり、レクリエーションで運動や歌・ぬり絵などをし気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回 花見ドライブや果物狩りに出かけたり、ボランティアの方々と一緒に散歩に出たり、時にはご家族と出かけたりしています。	天気のよい日は職員と散歩する他、顔馴染みの散歩ボランティアの人達と毎月1回散歩をしている。車椅子利用者も隣接する畑で果物の収穫を楽しんでいる。季節毎の花見や果物狩りで利用者の気分転換を図り、社会とのつながりを持てるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かっていません。 希望される方があれば預かり、出納帳をつけるなどの手伝いをします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話の使用は可能です。 手紙のやり取り等が出来る方があれば支援しますが現在 字が書ける方はおりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に沿ったカレンダーを作り、年中行事も取り入れています。	居間兼食堂は温度や湿度が調整され、清潔が保たれ、利用者と職員が製作したカレンダーや行事の写真が飾られている。ソファでは、利用者が食後の一時をテレビを見てくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はもちろんですが、ホールでTVを観たり、食堂のテーブルでパズルや将棋などを自由に出来る様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人やご家族に使い慣れた物を持ってきて頂く様、お伝えしています。	自宅と同じように過ごして頂くようベッドからカーペットに変えたり、居室の扉を閉めないでという人には暖簾を掛けたりして、安心して過ごしてもらえるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレなど大きな文字で表示しています。 家具などの配置も考え、移動されやすいよう、安全に気をつけています。		